

第4回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会・議事概要

日時：令和2年12月8日(火) 午後1時30分～午後3時30分

会場：高知共済会館 3階中会議室「藤」

1. 開会

高知県新エネルギー推進課(以下「事務局」という。)より、「第4回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会」の開会が宣言された。

2. 委員紹介

事務局 委員出席者は8名(今西委員欠席)であり、9名の委員の過半数が出席しており、本協議会設置要綱に基づき、本日の協議会は成立する旨、宣言する。

3. 説明・協議事項

(1) 計画の原案について

事務局 説明・協議事項(1)配布資料を説明した。

浅野会長 2050年までのカーボンニュートラルに向けて、地域資源を生かした素材の代替など高知らしさが出た計画になったと思う。また、産業構造を転換するチャンスなので観光産業の更なる振興を目指すことが望ましいと考える。藻場の吸収源対策に関しては、国に吸収源と認められる必要があると思うが、そのために高知大学で基礎研究の実施など検討してはどうか。

事務局 観光産業の振興は産業振興計画にて盛り込まれている。ブルーカーボンは吸収源として国に認められているが、吸収量の計算には未だ課題があるようである。藻の研究について高知大に問い合わせたことがあり、藻の研究に詳しい方はいるようである。

八田委員 第6章52ページ目、「発電時」は「エネルギー起源」の方が適切と思われる。ゼロカーボンを実現させるには森林吸収量を確保する必要があり、森林は老いると吸収量が減少するため森林を若返らせることが重要である。そのためには、今後、100年単位の長期的なビジョンが必要であると考えます。

事務局 産業振興計画の林業振興のパートで森林の手入れが計画されている。また、森林吸収量だけではカーボンニュートルの達成は難しいため、国は二酸化炭素貯留や二酸化炭素を排出しない工業技術などの技術革新、エネルギー源の電化及び再生可能エネルギーの導入による排出係数の低減が必要であると認識している。

八田委員 森林吸収によるカーボンニュートラルへの貢献が大きくないとしても、森林県である高知の役割は重要であると思われる。産業振興計画では目先の計画に留まっており、100年単位の長期ビジョンが必要であると思うが、そのようなビジョンは存在しないのが現状である。

浅野会長 これまでの森林の価値は木材としての価値であったが、これからは木が存在すること自体に価値が見い出されるようになると思う。高知県は全国で初めて森林環境税を導入した県でもあり、高知県だからこそ100年先の森林計画を作成してみてもどうかと思う。

下元委員 森林吸収量は理解が難しいと思うので、分かりやすい説明を追記すること。また、森林

	の手入れが重要であることが分かるような説明も含めて欲しい。
松岡委員	現在、高知県の再造林率は低く 35%程度であり、産業振興計画では再造林率の向上が計画されている。高知県の森林面積は大きい、その維持管理が重要であり、長期的な森林管理計画が必要であると考え。再造林率が低い背景はコストであり、植林に係る費用は補助金でカバーされるものの、その後の森林の手入れに関しては補助金が無く、手入れに係るコストと木材価格のバランスが見合っていないのが現状である。 70 ページ目の「農業用機材のスマート化」は「農林業用機材のスマート化」のように林業も含めた表記にすること。
内田副会長	持続可能な山の施業を検討し、高知県がモデルを確立できればよいと考える。57 ページの SDGs の推進に関して、SDGs の取組は地域全体が関わってくるので、事業者に限定する表記ではなく地域全体で取り組むような表現に変更すること。
事務局	森林管理に関して、航空写真データによる森林データを読み取り、林業者と木材業者の連携による効率的な森林管理が検討されているところである。
浅野会長	今西委員より削減目標に関して、排出係数固定でなく変動で表記することを意見として受け取っており、これに関して委員の意見を聞きたい。これまで排出係数固定で示していたのは、排出係数変動にすると県民の省エネ努力が見えづらくなってしまい、省エネ努力を評価できるようにするため固定としていた。また、前回策定時は排出係数の変動幅が今よりも大きかったことも一つの背景である。
八田委員	排出係数は原発稼働などの四国電力次第であり、県で干渉できるものではない。そのため、県がコントロールできる範囲の指標で評価するのが適切だと考えられ、目標は排出係数固定で見ることとし、排出係数変動は参考値扱いで 2 つ表記するのはどうか。
事務局	対外的な説明では排出係数変動で示すのが望ましく、県民の努力は分析の中で評価することができるため、目標値は排出係数変動で示したいというのが事務局の意見である。
浅野会長	これまでの経緯もあるため、今回の改定では、目標値は排出係数変動と固定の 2 つを併記で示すこととし、変動のみの目標値とするのは、次回の改定時に、世間の状況を踏まえて検討することを提案したい。
八田委員	提案に同意する。排出係数が目標通り低減するか不確定であるため、変動と固定の 2 つ併を記とするのが無難であると思う。
下元委員	提案に同意する。排出係数変動の目標値のみにするのは今のタイミングではなく、この変更はもっと議論が必要な事項と思われるので、今回の改定では変動と固定の 2 つ併記することが良いと思う。
浅野会長	その他、2 つ併記について委員会からは反対意見は無いですので、2 つ併記に修正ください。
事務局	承知した。

(2) 高知県の温室効果ガス排出抑制に向けた取組の重点項目について

事務局	説明・協議事項 (2) 配布資料を説明した。
徳弘委員	農業用機材のスマート化に関して、Next 次世代型施設園芸農業への進化プロジェクトでは Internet of Plants (IoP) が着目されている。ドローンを代表例とした記載になっているが適切な表現に修正をすること。

浅野会長 59番の藻場については重点目標としないのか。

下元委員 森林分野でも普及啓発活動を実施してはどうか。

八田委員 木質バイオマスによって育成された農産物のブランド化は考えないのか。バイオマスボイラーを導入した農家にメリットが還元される仕組みがあると良いと考える。

徳弘委員 環境配慮の付加価値が付いている農産物はまだないと思うが、エシカル商品に対する県民の意識啓発を行っていくことはできるのかと思う。

古谷委員 コロナ禍で所得減少の状況で、県民が割高なものを購入するとは思えず、なるべく安いものを選ぶはずである。環境配慮の農産物を購入するとポイントが付与されるなど、消費者にとってのメリットが必要だと思われ、そのためには事業者の協力が必要となってくる。

事務局 エシカル商品に対する普及啓発活動の一環としてエシカル商品の説明ブースと販売ブースを組み合わせた活動が検討されており、エシカル商品の説明を聞いて、商品をすぐに手に取ってみてもらうような啓発イベントを検討している。

浅野会長 現在Eコマースが主流なので、多くの消費者はインターネットで商品の情報を入手している。また、Eコマースは世界が市場となり、高知県は世界に誇れる一流の商品があるので世界に展開できるのではないかと思う。エシカル商品もEコマースを活用した展開を検討してはどうかと思う。ポイント制度に関しては既存のポイント制度と連携するのが良い。

(3) その他

事務局 脱炭素社会の実現に向けて、県では地球温暖化対策実行計画と新エネルギービジョンの2つの計画が動いているが、これら別々に活動するのではなく連携することが必要になると考えている。そこで、来年度以降、地球温暖化対策実行計画の推進協議会と新エネルギー導入促進協議会の2つの協議会を統合させたく了承頂きたい。1つの協議会の中で温暖化と新エネルギーを扱うこととなる。

浅野会長 環境に関することはまとめて議論することが好ましいと考えており、今までエネルギー分野だけ別になっていた点は気になっていたので、統合することで良いと思う。他の委員からも反対意見は無いので、エネルギー導入促進協議会と調整し体制を整えて欲しい。

事務局 概要版について、ページ数は8ページを予定しており、本日の配布資料の通りの構成でよいか確認頂きたい。

内田副会長 温暖化の影響として気候変動による災害を入れ込むこと。適応策、緩和策は難しいので、概要版の中で分かりやすく表現すること。

浅野会長 伝える内容を絞り込み、漢字を少なくし、カタカナ英語は使わないように意識すること。次回以降の改定では、漫画を使って分かりやすい概要版を作成するのも検討して欲しい。

八田委員 セメント業者へのアクションは何か講じるのか。

事務局 アンケートを実施したが、特に協力事項に関する要求はなかったため、特にアクションは行わないが、住友大阪セメント全体の2050年ゼロカーボンに対する取組が先日公表されたため、引き続きコミュニケーションを続けるようにしたい。

下元委員 環境は全体像を捉えるのが難しいと感じており、観光の龍馬パスポートのように、環境ポイントのような仕組みがあると、県民や事業者も環境への取り組みが理解できると思

う。

4. 閉会

以上をもって、「第4回 高知県地球温暖化対策実行計画推進協議会」を閉会。

次回協議会はパブリックコメント集計後の2月中旬を予定する。具体的な日程は改めて連絡する。

以上